Ｂ－５　「経済政策と公共部門」

（１）科目の紹介

<table>
<tr><td>基本情報</td><td colspan="3">平成 26 年度・教養教育・後期</td><td>曜日・校時</td><td colspan="2">月　2　限</td></tr>
<tr><td>モジュール名</td><td colspan="3">現代経済と企業活動</td><td>科目名</td><td colspan="2">経済政策と公共部門</td></tr>
<tr><td>教員名（所属）</td><td colspan="5">笹川　篤史（経済学部）</td><td>教室</td><td>A-11</td></tr>
<tr><td>選択者数</td><td>64 名</td><td rowspan="2">1 年生の所属学部</td><td colspan="4" rowspan="2">多文化社会学部　教育学部　薬学部　水産学部
（　35 名）　（　12 名）　（　9 名）　（　8 名）</td></tr>
<tr><td>再履修数</td><td>0 名</td></tr>
<tr><td colspan="7">授業のねらい：経済政策と公共部門の役割と課題について、財政政策、金融政策、規制というそれぞれの観点から、理解し、考察する。
モジュール I 科目として、今後の専門分野の学習の参考となるよう、興味・関心のある現代社会の課題の探求を通じ、経済や企業活動に影響を与える公共部門の役割を学ぶ。</td></tr>
<tr><td colspan="7">アクティブラーニングに向けて工夫した点：
① 必携 PC の利用：学部混成のため、情報収集・資料作成等のグループワークを授業時間内に行う。
② LACS の利用：掲示版をクラウド的に利用させ、資料作成プロセスを把握。（グループワークにおけるフリーライダーの防止。）
③ TA の利用：学生の Wi-Fi 接続、 LACS の利用、プロジェクター利用をサポート。
④ 利用教室：アクティブラーニング用の A-11 教室を依頼。（7 チームの同時発表が可能。）
⑤ サポート：発表時のトラブル対策を ICT 基盤センターに依頼。
⑥ リハーサル：当日の発表が円滑に行えるよう、発表の前の授業において実施。
⑦ 講義用 SSID の周知：多人数での Wi-Fi 利用が可能な講義用 SSID(5G)を LACS の連絡事項で利用周知。</td></tr>
</table>

（２）学修の評価

到達目標	経済政策と公共部門の役割と課題について理解し、その課題の概要について説明できるようになる。
成績評価の方法	グループ発表の内容・授業への貢献・積極的参加（50%）、レポート（50%）。（定期試験は実施しない。）

（３）授業の進行

概　要：
グループで３分野（①租税と財政の役割と課題、②金融・金利・物価・為替に関する政策、③規制の役割と課題）について、調べ、発表を行う。
発表の際は、相互に質問を行い、LACS によりコメントの書きこみを行う。
授業中に、各自の用意するノートパソコンと長大 Wi-fi を利用し、作成した資料は LACS の掲示版を用いて情報交換する。
最後に、自分が調査・発表に際して貢献したこと、学んだことなどをレポートにまとめ、LACS により提出する。

回	学習内容	授業方法（講義、ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ、ﾌﾟﾚｾﾞﾝなど）
1	イントロダクション、授業の進め方の説明など	ガイダンス 第１回発表のグループ分け、分担の決定
2	租税と財政の役割と課題の発表資料作成	グループワーク：資料収集、発表資料作成
3	租税と財政の役割と課題の発表資料作成	グループワーク：作成した資料のすり合わせ
4	租税と財政の役割と課題の発表準備	グループワーク：発表のリハーサル、印刷手順の確認、担当時間の決定、質問の回答の準備、発表資料の LACS 投稿
5	第１回（租税と財政の役割と課題）発表	グループワーク：第 1 回発表、LACS の掲示版への相互コメントの入力
6	金融・金利・物価・為替に関する政策の発表資料作成	第 2・3 回発表のグループ分け、発表資料作成
7	金融・金利・物価・為替に関する政策の発表資料作成	グループワーク：作成した資料のすり合わせ
8	金融・金利・物価・為替に関する政策の発表準備	グループワーク：発表のリハーサル、印刷手順の確認、担当時間の決定、質問の回答の準備、発表資料の LACS 投稿
9	第２回（金融・金利・物価・為替に関する政策）発表	グループワーク：第 2 回発表、LACS の掲示版への相互コメントの入力
10	規制の役割と課題の発表資料作成	グループワーク：資料収集、発表資料作成
11	規制の役割と課題の発表資料作成	グループワーク：資料収集、発表資料作成
12	規制の役割と課題の発表資料作成	グループワーク：作成した資料のすり合わせ
13	規制の役割と課題の発表資料作成の発表準備	グループワーク：発表のリハーサル、印刷手順の確認、担当時間の決定、質問の回答の準備、発表資料の LACS 投稿

14	第３回（規制の役割と課題）発表	グループワーク：第 3 回発表、LACS の掲示版への相互コメントの入力
15	授業の総括	授業の総括：レポート作成・提出

（４）授業の成果

全体の総括	「自主的に探究する力」をつけるために、関心を持ったテーマをグループで調べて発表する方式を中心とした。 発表テーマは、経済学と履修者の関心分野との関連性を意識し、専門性の高いものもあり、発表内容には課題もあるが、1 年次の発表内容としては十分な水準と思われる。
今後の改善点	図書館の利用促進、発表時に聴く側の人数調整。 効率的な評価方法の確立。 アクティブラーニングを望んでいない学生への対応。

（５）アクティブ・ラーニングの充実に向けた提案

ポイント提案	自学部所属の学生の全学モジュール科目の受講制限により専門外のことを学ぶため、本格的な PBL の実施は難しい。 知識の伝達・解説が中心ならばクリッカーを、ジェネリックスキル育成が目的なばらグループによる調べ学習等といった、目的に応じたアクティブラーニング手法の使い分けが重要。 必携 PC と LACS(SmartClicker for LACS を含む。)を組み合わせることにより、アンケートや掲示版を利用し、双方向性を高めることが可能。 各人別（グループワーク以外）の必携 PC 利用方法としては，授業時間内の LACS によるテスト・アンケートが考えられる。 発表以外のグループワークのアウトプットとして，共同レポート作成が考えられる。 必携 PC を利用し、授業時間内に，株式学習ゲーム等のオンライン教材に取り組むことも考えられる。 グループワークの場合、積極的に取り組むか否かで学習効果に違いが生じやすいと思われる。特に、コンピテンシーの低い学生ほど、消極的になり、能力向上につながらない可能性が考えられる。グループの人数を小さくして、ローテーションで調整役を義務づける等の工夫が考えられるが、慣れない学生には負担と感じる可能性が生じる。 履修者が多数かつグループ発表を行う場合、複数同時発表とするか、1 グループあたりの発表時間を短縮するか、検討が必要。

参考になる資料	『長崎大学におけるアクティブラーニング事例』 『三重大学版 Problem-based Learning の手引き－多様な PBL 授業の展開』 『アクティブラーニングでなぜ学生が成長するのか―経済系・工学系の全国大学調査からみえてきたこと―』東信堂 「必携ＰＣを利用した授業事例(モジュールⅠ、学部モジュール)」FD：「体験する PC 必携化～講義の中での活用～」講習会　2014 年 12 月 18 日 「必携 PC を利用したアクティブラーニングについて」経営と経済、2015 年 3 月

（別添資料）

授業で配布した資料の一部を添付。